

(2) 授業の見直しと質的改善を図るための手立て

授業の質的改善を図るためには、日頃の授業について視点を持って振り返り、生徒の実態と自分自身の授業づくりにおける課題を、具体的に把握することが必要です。そして、課題を解決するための手立てを探り、実践後は生徒の変容から手立ての効果を振り返ります。この過程を繰り返すことで、授業の質的改善が図られ、生徒の資質・能力をより効果的に育てることができると考えます（図 1）。

外国語科の授業の改善・充実を図る、「主体的・対話的で深い学び」の視点については、『学習指導要領解説』や、『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』で示されたものを、授業の質的改善によって目指す生徒の学びの姿と合わせて次頁表 1 に整理しました。

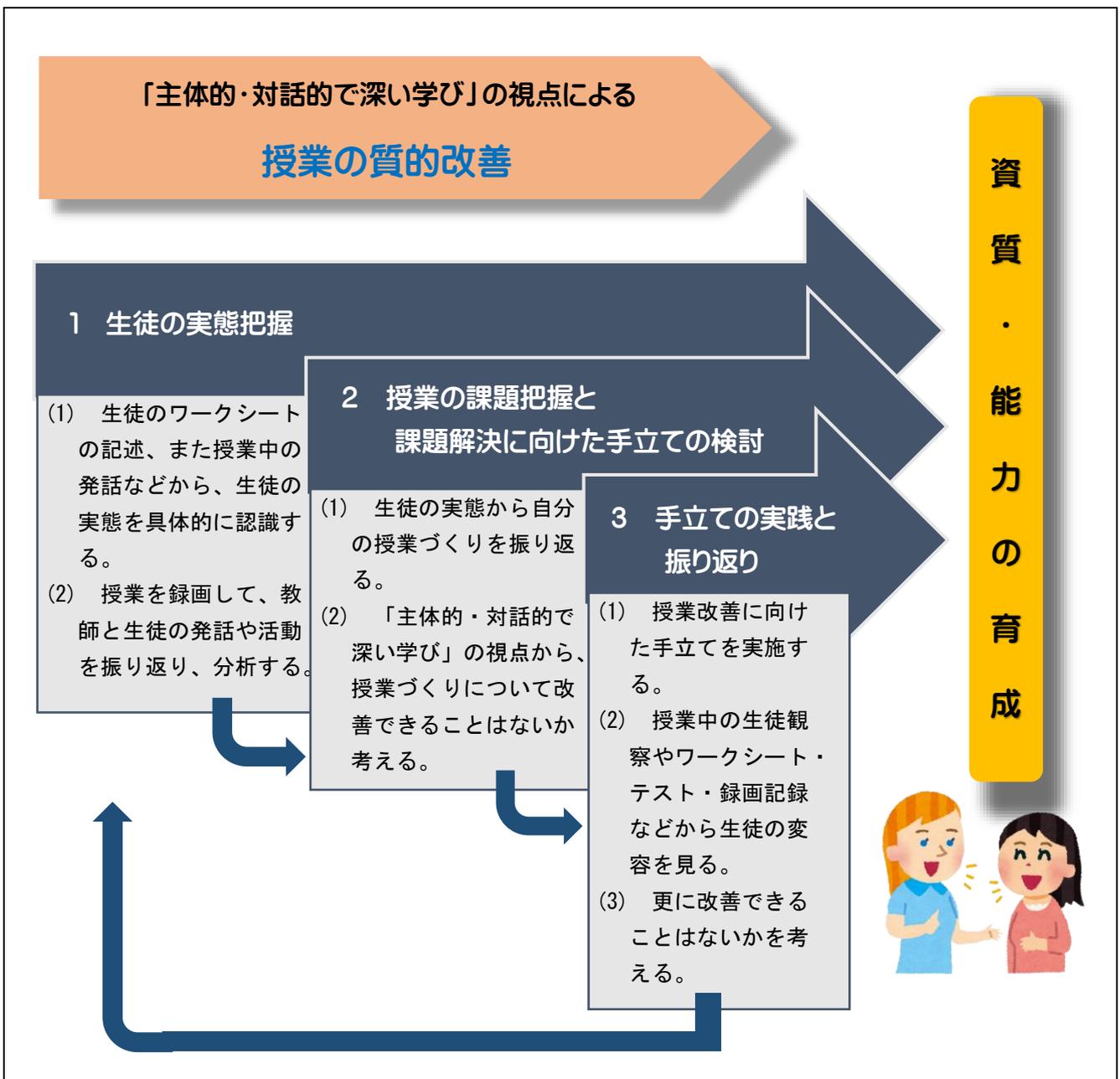


図 1 授業の質的改善の過程

表 1 外国語科の授業の改善・充実を図る「主体的・対話的で深い学び」の視点

	授業改善・充実の視点	目指す生徒の姿
主体的な学び	<ul style="list-style-type: none"> ○コミュニケーションを行う目的・場面・状況等を明確に設定する。 ○学習の見通しを立てたり振り返ったりする場面を設定する。 ○発達の段階に応じて、身の回りのことから社会や世界との関わりを重視した題材を設定する。 ○学習したことを振り返ったりして、自身の学びや変容を自覚できる場面を設定する。 など 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 外国語を学ぶことに興味や関心を持っている。 <input type="checkbox"/> 見通しを持ち、意欲的に学習に取り組んでいる。 <input type="checkbox"/> 学習到達目標の達成や学習課題の解決に向けて、工夫して学習している。 <input type="checkbox"/> 学習到達目標の達成や学習課題の解決のために、粘り強く継続して学習している。 <input type="checkbox"/> 今何ができて、何ができないかを認識して。 <input type="checkbox"/> 今何ができて、何ができないかという気付きに基づき自分の学習到達目標を設定している。 <input type="checkbox"/> 習った表現を積極的に活用しながら、学習課題を解決しようとしている。 <input type="checkbox"/> 進んで辞書やインターネットなどを利用し、未知の表現を習得しようとしている。 <input type="checkbox"/> 与えられた学習課題の解決後、より定着させるために自主的に練習に取り組んでいる。 <input type="checkbox"/> 自ら発展的な内容に取り組んでいる。
対話的な学び	<ul style="list-style-type: none"> ○コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じて、他者を尊重しながら対話が図られるような言語活動を行う学習場面を計画的に設定する。 ○対話によって自分の考えなどを広げたり深めたりする場面を設定する。 など 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> ペアやグループでの学習を通して互いに学び合い、視野や考えを広げている。 <input type="checkbox"/> 教師やクラスメートとの対話や、教師やクラスメートからのフィードバックを通して、自分の考えを整理したり修正したりしている。 <input type="checkbox"/> 互いの考えや気持ちなどを理解し合い、根拠を持って伝え合っている。
深い学び	<ul style="list-style-type: none"> ○コミュニケーションを行う目的・場面・状況等に応じた言語活動を効果的に設計する。 ○資質・能力の三つの柱に示す力が、総合的に活用・発揮されるようにする。 ○生徒が考える場面と教師が教える場面の組立てを工夫する。 など 	<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 習得した知識や技能を五つの領域について活用し、コミュニケーションを図ったり、学習課題を解決しようとしたりしている。 <input type="checkbox"/> 聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮してコミュニケーションを図っている。 <input type="checkbox"/> 実際に知識や技能を活用することを通して、自分の考えを見直したり、修正したり、新しい学びを加えたりしながら、学習内容を深く理解している。 <input type="checkbox"/> より深く学びたいという意欲を持っている。 <input type="checkbox"/> 学習したことを実際に活用して、新しいものをつくり出している。

「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業の質的改善を進めていくに当たり、外国語科の学習指導過程ごとに、目指す生徒の姿と、そこから見えてくる教師の指導を整理した授業振り返りシートを作成しました(表2)。このシートは、日々の授業づくりを、視点を持って振り返り、実態を把握することをサポートするものです。自らの指導上の課題を見いだした場合は、どのような手立てをとれば課題が解決され、授業が質的に改善されるのか考え、考えた手立てを実践していきます。このような取組を学期に1回など、定期的かつ継続的に行っていくことが大切だと考えます。

課題解決の手立てについては、生徒の実態や学習環境、学習内容、また、教師の持ち味など、様々なことを考慮する必要があります。うまく思い付かない場合は、一例を示した授業の質的改善の手立てシート(表3)を参考にするなどして、よりよい手立てを考えてみましょう。

※ 本研究委員会で作成した表2、3は、完成形ではありません。理論研究と各研究委員の日々の授業の振り返りを基に、随時修正を図っていきます。

表2 授業振り返りシート

授業の質的改善のプロセス		1 生徒の実態を把握しよう、「自分の学び」の視点から授業づくりをしよう。	2 自分の授業づくりを振り返り、授業の質的改善の手立てを整理しよう。	3 授業に活かせる手立てを考えよう。
授業の質的改善のプロセス	1 コミュニケーションの活用、状況等の把握	1 授業の質的改善の視点として、生徒の実態を把握しよう。 ① 生徒の実態を把握しよう。 ② 生徒の実態を把握しよう。	1 授業の質的改善の視点として、生徒の実態を把握しよう。 ① 生徒の実態を把握しよう。 ② 生徒の実態を把握しよう。	1 授業の質的改善の手立てとして、生徒の実態を把握しよう。 ① 生徒の実態を把握しよう。 ② 生徒の実態を把握しよう。
	2 教材に合わせた家庭での学習の状況の把握	2 教材に合わせた家庭での学習の状況の把握 ① 教材に合わせた家庭での学習の状況の把握 ② 教材に合わせた家庭での学習の状況の把握	2 教材に合わせた家庭での学習の状況の把握 ① 教材に合わせた家庭での学習の状況の把握 ② 教材に合わせた家庭での学習の状況の把握	2 教材に合わせた家庭での学習の状況の把握 ① 教材に合わせた家庭での学習の状況の把握 ② 教材に合わせた家庭での学習の状況の把握
	3 目的意識の明確化	3 目的意識の明確化 ① 目的意識の明確化 ② 目的意識の明確化	3 目的意識の明確化 ① 目的意識の明確化 ② 目的意識の明確化	3 目的意識の明確化 ① 目的意識の明確化 ② 目的意識の明確化
	4 学習の進捗の把握	4 学習の進捗の把握 ① 学習の進捗の把握 ② 学習の進捗の把握	4 学習の進捗の把握 ① 学習の進捗の把握 ② 学習の進捗の把握	4 学習の進捗の把握 ① 学習の進捗の把握 ② 学習の進捗の把握

Clickすると拡大します。

表3 授業の質的改善の手立てシート

授業の質的改善の手立て	授業の質的改善の手立て	授業の質的改善の手立て	授業の質的改善の手立て	授業の質的改善の手立て
1 授業の質的改善の手立て	2 授業の質的改善の手立て	3 授業の質的改善の手立て	4 授業の質的改善の手立て	5 授業の質的改善の手立て
6 授業の質的改善の手立て	7 授業の質的改善の手立て	8 授業の質的改善の手立て	9 授業の質的改善の手立て	10 授業の質的改善の手立て
11 授業の質的改善の手立て	12 授業の質的改善の手立て	13 授業の質的改善の手立て	14 授業の質的改善の手立て	15 授業の質的改善の手立て
16 授業の質的改善の手立て	17 授業の質的改善の手立て	18 授業の質的改善の手立て	19 授業の質的改善の手立て	20 授業の質的改善の手立て

Clickすると拡大します。

「授業振り返りシート」と「授業の質的改善の手立てシート」を使った、授業の振り返りと見直しの進め方 例



1 生徒の実態を把握しましょう。

1 自分が指導している学級の生徒の様子を思い浮かべながら、「授業振り返りシート」の①の項目について、どの程度の生徒ができているかを評価し、実態を把握しましょう。

【自己評価の目安】

- クラスの多くの生徒ができている。 → (○)
- クラスの半分程度の生徒ができている。 → (△)
- クラスのほとんどの生徒ができていない。 → (×)

1組の生徒たちの授業の様子はどうかだったかな？



- 1 コミュニケーションの目的や場面、状況等の理解
- 2 目的に応じた発信までの方向性の決定・言語活動の見直し

① 生徒の実態を把握しましょう。「私の生徒は・・・」
 クラスの多くの生徒ができている。→○
 クラスの半分程度の生徒ができている。→△
 クラスのほとんどの生徒ができていない。→×

(△) 単元ゴールの活動の目的や場面を理解している。
 例) 「ホームステイ先の家族に写真や物を見せながら、自分のことや、日本での生活などについて紹介する」
 「日本を初めて訪ね、○○校にALTとしてやって来る△△先生に歓迎の気持ちを伝えるためにどんなことができるのか話し合う」
 「ロボットと人間の共存について書かれた記事などを読み、自分の考えをまとめて発表する」 など

(○) 単元ゴールの活動において、英語を使って何をやるのか具体的に理解している。
 例) 「ALTの意見を聞く」「メールを読む」「ALTとやり取りする」
 「メモを見ながら発表する」「B文程度のエッセイを書く」 など

(△) 単元ゴールの活動に興味・関心を持っている。

(△) 単元ゴールの達成に向けた言語活動について見直しを持っている。
 例) 「過去の出来事を伝えるために必要な表現や文法を学ぶ」
 「常学習でやり取りに慣れるための言語活動を行う」
 「3時目、6時目目により取りの練習の様子を録画、発音や表現の正しさ、またアイコンタクトや声の大きさなどについてペアでチェックする」 など

(×) 単元ゴールの達成に必要な力について、自分ができていることや知っていること、また、これから身に付けなければならないことを把握している。
 例) 「発音には自信がある」「明日の予定の言い方は知っている」
 「原稿を見ないで言うのは難しそう」 など

2 「×」又は「△」と評価した項目の中から「早速、改善を図りたい!」と思われる項目を決めましょう。

2 自分の授業づくりを振り返りましょう。

3 ①で「×」または「△」と評価した項目に関わって、その右側の②のチェックリストの項目を見ながら、「あまりできていないなあ…」と思う項目がありましたら、□にチェックをしてみましょう。

やっていなかったことがたくさん!



授業の質的改善のプロセス	① 生徒の実態を把握しましょう。「私の生徒は・・・」	② 自分の授業づくりを振り返りましょう。「生徒の資質、能力を育てるために、私は・・・」
<p>1 コミュニケーションの目的や場面、状況等の理解</p> <p>↓</p> <p>2 目的に応じた発信までの方向性の決定・言語活動の見直し</p>	<p>(△) 単元ゴールの活動の目的や場面を理解している。 例) 「ホームステイ先の家族に写真や物を見せながら、自分のことや、日本での生活などについて紹介する」 「日本を初めて訪ね、○○校にALTとしてやって来る△△先生に歓迎の気持ちを伝えるためにどんなことができるのか話し合う」 「ロボットと人間の共存について書かれた記事などを読み、自分の考えをまとめて発表する」 など</p> <p>(○) 単元ゴールの活動において、英語を使って何をやるのか具体的に理解している。 例) 「ALTの意見を聞く」「メールを読む」「ALTとやり取りする」 「メモを見ながら発表する」「B文程度のエッセイを書く」 など</p> <p>(△) 単元ゴールの活動に興味・関心を持っている。</p> <p>(△) 単元ゴールの達成に向けた言語活動について見直しを持っている。 例) 「過去の出来事を伝えるために必要な表現や文法を学ぶ」 「常学習でやり取りに慣れるための言語活動を行う」 「3時目、6時目目により取りの練習の様子を録画、発音や表現の正しさ、またアイコンタクトや声の大きさなどについてペアでチェックする」 など</p> <p>(×) 単元ゴールの達成に必要な力について、自分ができていることや知っていること、また、これから身に付けなければならないことを把握している。 例) 「発音には自信がある」「明日の予定の言い方は知っている」 「原稿を見ないで言うのは難しそう」 など</p>	<p>② 自分の授業づくりを振り返りましょう。「生徒の資質、能力を育てるために、私は・・・」 ※ うまく取組めなかったときでもよいので必ず</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 単元ゴールの活動におけるコミュニケーションの目的や場面、状況などを生徒に明示し、学習の見直しを持たせられるよう、具体的な学習指導計画を立てている。</p> <p><input type="checkbox"/> 単元のスタートに、単元ゴールの活動の目的や状況について具体的に生徒に示している。</p> <p><input type="checkbox"/> 単元ゴールの活動の目的や状況において、英語で何をやるのか具体的に生徒に理解させている。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 単元ゴールの活動に興味・関心を持たせるための工夫をしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 単元ゴールの達成に向けて、どのような学習を行うか生徒に示している。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 単元を通して、何が分り、何ができるようになるのか生徒に示している。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 単元ゴールの活動でどのようなパフォーマンスを行いたいのか、生徒に目標を立てさせている。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 生徒が現在の自分の力を把握し、単元ゴールの達成に向けて、どのような学習が必要か考えることができるような機会を設けている。</p>

3 改善につながる手立てを考えてみましょう。

4 ③の枠の中に、改善に向けての手立てを考えて書いてみましょう。その際に、手立てがうまく思い付かない場合は、「授業の質的改善の手立てシート」(表3)も参考にしてみましょう。

まずは、こんな手立てをとってみようかな…



③ 改善につながる手立てを考えてみましょう。
 「授業をよりよい学びの場にするために、私は・・・」
 アイディアに詰まったら・・・「授業の質的改善の手立てシート」(表3)へGO!

「授業の質的改善の手立てシート」
この手立てを考えるかな…

A→主-D
I→主-D・E
U→主-E
E→主-A・B・C・D・F・G、
対-A、策-A

A→主-H
I→主-I
U→主-I・J、策-C
E→主-I・K、対-B、策-B・C
O→主-A・B・C・H・I・J・K、
対-B、策-B・C

小規模研修における学習指導	指定されたコミュニケーションの目的や場面、状況等を理解する	目的に応じた情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、コミュニケーションの見直しを立てる
<p>主体的な学び</p>	<p>A 授業が実際のコミュニケーションの場面となるようにする。英語で授業を行ないながら自然なコミュニケーションの場面をつくり、生徒が英語を使えるとともに、実際に英語を繰り返し使うことを通じて知識や技能を習得することができる。</p> <p>D 単元全体を通して、生徒にどんな力を身に付けさせるのか考え、そのためにどのような言語活動を行わせるのかについて、逆向き設計で具体的な学習指導計画を設定する。(ソングカードやコンセプトマップなどを活用して単元計画を可視化する)</p> <p>E 実演やビジュアル教材の活用によるモデルの提示を行い、コミュニケーションの目的や場面、状況、また方法などを生徒に伝わりやすく示す。</p> <p>F コミュニケーションの必然性があるオーセンティックな活動を設定する。</p> <p>G ビジュアル教材やTeacher Talkで、題材に係る情報を生徒から引き出したり、背景知識を考えたりして、学習内容と自身自身を関連付けて捉えさせ、生徒の学習</p>	<p>H 単元を見通した学習計画を示し、単元ゴールの達成に向けて、英語を使って何をやるのかについて生徒と共有する。</p> <p>教師と生徒が、具体的な学習活動のゴールを共有するために、Rubric/CAN-DOリストを活用する。</p> <p>I モデルを示しながら、生徒に単元を通した努力目標を立てさせる。</p> <p>K 生徒の実態に合わせ、目標達成や課題解決に向けた効果的な学習方法を提示したり、考えさせたりする。</p>

5 手立てを考えたら、次に単元の授業の中で具現化してみましょう。そして、その手立てにより、その単元で身に付けさせたい力が習得されているかを、①の項目などに立ち返りながら確認してみましょう。

Case 1 授業に対して受け身になっている生徒が多いことが悩みの A 先生



- ・ 全体的に学習意欲が低くて、授業に集中できない生徒も多い。
- ・ 問い掛けをしても、なかなか反応が返ってこないし、応答するのは同じ生徒ばかりだ。
- ・ ペア学習をさせても、音読練習をさせても、適当に活動を終わらせようとする生徒がたくさんいて、対応に苦労している。

1 生徒の実態を把握しましょう。

単元の終わりの自分の姿をイメージして、目標を持って学習している子は、ほとんどいない気がする。英語の学習に関心を持っているようにも見えない…。



1 コミュニケーションの目的や場面、状況等の理解

- (△) 単元ゴールの活動の目的や場面を理解している。
例) 「ホームステイ先の家族に写真や物を見せながら、自分のことや、日本での生活などについて紹介する」
「日本を初めて訪れ、〇〇校にALTとしてやって来る△△先生に歓迎の気持ちを伝えるためにどんなことができるのか話し合う」
「ロボットと人間の共存について書かれた記事などを読み、自分の考えをまとめて発表する」 など
- (△) 単元ゴールの活動において、英語を使って何をするのか具体的に理解している。
例) 「ALTの意見を聞く」「メールを読む」「ALTとやり取りする」
「メモを見ながら発表する」「8程度のエッセイを書く」 など
- (×) 単元ゴールの活動に興味・関心を持っている。

2 目的に応じた発信までの方向性の決定・言語活動の見直し

- (×) 単元ゴールの達成に向けた言語活動について見直しを持っている。
例) 「過去の出来事を伝えるために必要な表現や文法を学ぶ」
「帯学習でやり取りに慣れるための言語活動を行う」
「3時目、6時目目にやり取りの練習の様子を録画、発音や表現の正しさ、またアイコンタクトや声の大きさなどについてペアでチェックする」 など
- (×) 単元ゴールの達成に必要な力について、自分ができることや知っていること、また、これから身に付けなければならないことを把握している。
例) 「発音には自信がある」「明日の予定の言い方は知っている」
「原稿を見ないで言うのは難しそう」 など
- (×) 単元ゴールの達成に向けた言語活動を通して、何がどれくらいできるようになりたいか、など目標を持っている。

2 自分の授業づくりを振り返りましょう。

1時間の授業で何をさせるかということばかり考えていて、単元全体でどのような力を付けるかということ意識していなかった！だから、生徒にも学習の見直しを持たせられなかったし、学習の必然性を感じさせることができているのか…。

生徒が学習に関心を持つようになるための工夫もできていないな…。



- ア 単元ゴールの活動におけるコミュニケーションの目的や場面、状況などを生徒に明確に示し、学習の見直しを持たせられるよう、具体的に学習指導計画を立てている。
- イ 単元のスタートに、単元ゴールの活動の目的や状況について具体的に生徒に示している。
- ウ 単元ゴールの活動の目的や状況において、英語で何をするのか具体的に生徒に理解させている。
- エ 単元ゴールの活動に興味・関心を持たせるための工夫をしている。

- ア 単元ゴールの達成に向けて、どのような学習を行うか生徒に示している。
- イ 単元を通して、何が分かり、何ができるようになるのか生徒に示している。
- ウ 単元ゴールの活動でどのようなパフォーマンスを行いたいのか、生徒に目標を立てさせている。
- エ 生徒が現在の自分の力を把握し、単元ゴールの達成に向けて、どのような学習が必要か考えることができるような機会を設けている。
- オ これから行う学習に興味・関心を持たせたり、英語力の向上に意欲を持たせるための工夫をしている。

Case 2 学習内容がなかなか定着しないことが悩みの B 先生



- ・生徒は、一生懸命授業に取り組んでいるし、ペアやグループでの活動にも積極的で、楽しんでいるように見える。
- ・なかなか教えたことが定着しなくて、テストで正確に英文を書くことができない生徒が多い。
- ・スピーチを書かせても、モデルの文のまねで終わってしまって、どの生徒も同じようなことを書いている。もっと、いろいろ工夫してほしい。

1 生徒の実態を把握しましょう。

Input	<ul style="list-style-type: none"> (△) 実際のコミュニケーションの場面をイメージし、語彙・表現や文法などの言語知識などの習得に、意識的に取り組んでいる。 (△) 各活動の目的を理解し、何がどのくらいできるようになりたいのか目標を持って組んでいる。 (×) 様々な英語を聞いたり読んだりして、多量の英語をインプットしている。 (○) ペアやグループで協力して学習している。 (×) 語彙や表現の習得に向けて、進んで辞書やインターネット等を活用している。
Intake	<ul style="list-style-type: none"> (△) これまでに習得した知識や技能を、コミュニケーションの場面で聞いたり読んだりして理解することや、話したり書いたりして表現することに活用し、学習課題を解決しようとしている。 (×) 語彙・表現や文法を五つの領域において繰り返し活用して定着を図っている。 (×) 学習したことを基に、自分で調べたり再考したりして学習課題を解決しようとしている。 (○) 仲間と協力して課題を解決しようとしている。 (×) 言語活動の途中や最後に自分の発話や作品を振り返り、再考したり、修正したりして、より良いものにしようとしていたりしている。 (×) 自分がどれくらい知識や技能などを身に付けているのかを自覚している。

一生懸命学習しているけれど、学習活動の目的が分かって、目標を持って学習している生徒はどれくらいいるのかな？語彙・表現や文法の習得のために、どんなことをしているのかな？



2 自分の授業づくりを振り返りましょう。

- | | |
|--------|--|
| Input | <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> ア 実際のコミュニケーションにおける運用をイメージしたインプットができるようにしている。 <input type="checkbox"/> イ 各活動の目的を具体的に生徒に示し、学習到達目標を持って活動に取り組ませる。 <input checked="" type="checkbox"/> ウ 生徒の実態（言語レベル、学習スタイル、学習環境、興味など）に応じた様々な言語活動を通して、楽しみながら、たくさんインプットが行われるように工夫している。 <input checked="" type="checkbox"/> エ 生徒にとって質の良いインプットが繰り返し行われるよう、Teacher Talkや教材で用いる英語のレベルや量、また、話の内容などは、生徒の実態に応じたものになるよう心掛けている。 <input checked="" type="checkbox"/> オ 生徒が自分で調べたり、人と協力して学習したりすることができるような時間を設けたり、環境を整えたりしている。 |
| Intake | <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> ア これまでに身に付けた知識や技能を活用して解決する必然性がある学習課題を設定している。 <input checked="" type="checkbox"/> イ 技能統合型の言語活動を設定し、五つの領域にわたってコミュニケーションを図る資質・能力をバランスよく育成できるよう工夫している。 <input type="checkbox"/> ウ 生徒の実態に応じた言語活動を設定している（場面設定、語彙レベル、言語使用量など）。 <input checked="" type="checkbox"/> エ 学習した内容を、異なる場面設定の中で、繰り返し学ぶことができるような活動を設けている。 <input type="checkbox"/> オ 人と協力して課題を解決したり、互いに学び合ったりする活動を設けている。 <input checked="" type="checkbox"/> カ 教師やクラスメートからのフィードバックを生かして、理解を確かめたり、修正したりできる場を設けている。 <input checked="" type="checkbox"/> キ 生徒が自分の学習到達度を具体的に自覚できるよう工夫している。 |

インプットの量が少なかったし、同じ語彙・表現に繰り返し出会えるような工夫も足りなかったから、なかなか定着しないのかな。

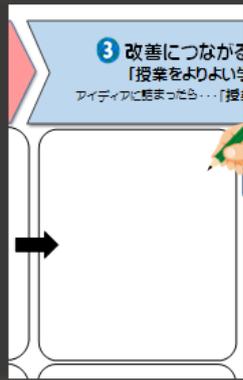
音読やPDなどさせてはいるけれど、何のためにしているのか、何を意識してやればいいのかについて、生徒に伝えたり、考えさせたりすることが少なかったかな。学習達成状況を自覚させる手立ても取っていなかった。



教えたことを正確に表現させることばかりさせていて、生徒自身に何を表現したいのか考えさせる時間を作っていなかったな。「英語で〇〇を伝えたい！」と生徒に思わせる仕掛けづくりもしなくて。それに、辞書を使って、必要な表現を探し出せるような練習をさせていないから、表現が広がらなかったのかも。

習得した知識を、実際にコミュニケーションの場面で使う体験も不足していたようだ。今の自分が持っている力で、言いたいことが言えたとか、うまく伝えられなかったとかを実感したり、表現や内容を振り返って修正したりすることができる場がなかったな。

3 改善につながる手立てを考えてみましょう。



なかなかアイデアが思い浮かばないな…。「授業の質的改善の手立てシート」を参考にしてみよう。

黄枠：主体的な学びの視点からの手立て

- A** 授業が実際のコミュニケーションの場面となるようにする。英語で授業を行いながら自然なコミュニケーションの場面をつくり、生徒が英語に触れる機会を充実させるとともに、実際に英語を繰り返し使うことを通して知識や技能を習得することができるようにする。
- N** コミュニケーションを行う必然性があり、学習した内容と関連付けながら、複数の技能を組み合わせる言語活動を設定する。
例) ペアトーク、Reproduction、Q&A Making、T or F Quiz Making、Skit Making、なりきり日記、Read between the Lines、Picture Describing、Comment Writingなど
- T** 学習課題解決の手順やヒント、辞書やお助けシート、インターネットの活用方法など、自力で課題を解決するために必要な情報やツールをあらかじめ提示しておく。
- O** 常学習で、場面設定を変えながら既習内容を繰り返し使う機会を設け、生徒が自己の成長を実感したり、達成感を味わったりすることができるようにする。
- P** 動画記録や作品を、正確さや流暢さ、内容の質など、視点を持って振り返らせ、自分の現在の力を自覚したり、向上に向けて改善を図ったりすることができる場を設定する。
- W** 活動の途中で、自分の発話や作品の内容について見直したり、教師やクラスメートからのFeedbackを受けたりして、気づき、修正、工夫ができる場を設定する。

ピンク枠：対話的な学びの視点からの手立て

- C** Teacher Talkでは、生徒にとって理解可能なレベルの表現から、少しレベルが高い表現までおりませで使用し、教師の話を聞くことや、教師とやり取りをすることから表現を学ぶことができるようにする。
- D** 教師やクラスメート、様々なネイティブスピーカーの発話や作品、本や記事などを聞いたり読んだりして、語彙・表現や文法などを習得することができる場を設定する。
- G** 活動の途中で、学習内容の理解についての確認や、発話・作品の内容についての見取りを通して気付いたことを、クラス全体で共有し、個々の生徒が自分の修正・再構築に生かすことができる場を設定する。(良い例から学ばせる、間違いや改善点に気付かせるなど)
- E** 読んだり聞いたりして得た情報を、整理して人に伝えたり、書いてまとめたり、人とやり取りしたりして、学習内容を深め、知識や技能を習得することができる活動を設定する。

緑枠：深い学びの視点からの手立て

- E** 授業をインタラクティブに展開し、自然なコミュニケーションの場面における教師とのやり取りや、生徒同士の情報交換などを通して、思考や発話を促しながら、複数の技能を組み合わせる実際に英語を使う経験を積み重ねることができるようにする。
- H** CAN-DOリストやRubricなどを活用し、コミュニケーションの場面に求められる力を、複数の面(適切さ・正確さ・技能など)から示し、具体的な振り返りを通して学習到達状況や改善点を明確に自覚することができるようにする。